

第14回奈良県立万葉文化館委託共同研究
「古代における地方文化の創成—大和の東西—」成果報告

第22回 万葉古代学公開シンポジウム

古代における 地方文化の創成 —大和の東西—

令和6年 **11月17日** 日
13:30～17:00 (開場 13:00)

共同研究の趣旨

古墳時代東国の歴史的特性の検討 —万葉集東歌を絡めて—

東歌における「駒」の文学表現の分析 —「沓履けわが背」から見る東国—

遣唐使・遣新羅使の旅と祈りと対外認識 —『万葉集』を手がかりに—

「鄙」の創成 —律令官人による風土の〈発見〉—

近代における文化財報道と地域意識の形成

シンポジウム

(共同研究代表者／ノートルダム清心女子大学) 東城 敏毅

(明治大学) 若狭 徹

(ノートルダム清心女子大学) 東城 敏毅

(早稲田大学) 田中 史生

(岡山大学) 松田 聡

(読売新聞社) 清岡 央

会場 奈良県立万葉文化館

定員 **150名** 要事前申し込み

※定員を超えた場合は抽選
※オンライン配信はありません。

参加費 **500円** (資料代含む)

※当日受付にて代金をお支払いください。

申込方法 往復ハガキ または 専用申込フォームによる事前申込
(電話・メール・FAXは不可)

申込締切 **10月17日** 木

参加の可否は10月末頃にお知らせする見込みです。

※実施方法は変更する場合があります。※資料は当日で参加の方のみお受け取りいただけます。

お申し込み・お問い合わせ先

住所

〒634-0103
奈良県高市郡明日香村飛鳥10
奈良県立万葉文化館「公開シンポジウム」担当

【アクセス】※ご来館には公共交通機関をご利用ください。

- 近鉄橿原神宮前駅東口または飛鳥駅より
周遊バス(かめバス)乗車(約20分)→万葉文化館西口下車すぐ
奈良交通バス案内 テレフォンセンター TEL0742-20-3100
- 近鉄橿原神宮前駅よりタクシー(約10分)

電話 0744-54-1850

開館時間 10時～17時30分(入館は17時まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日休館)



奈良県立万葉文化館
Nara Prefecture Complex of Man'yō Culture

<https://www.manyo.jp>

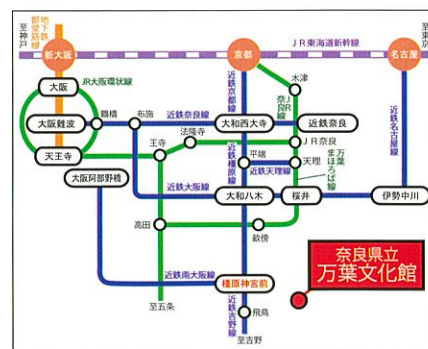
往復ハガキでのお申し込み

タイトル(第22回万葉古代学公開シンポジウム)と、郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記の上、お申し込み締切日**必着**にて、下記の宛先までお申し込みください。

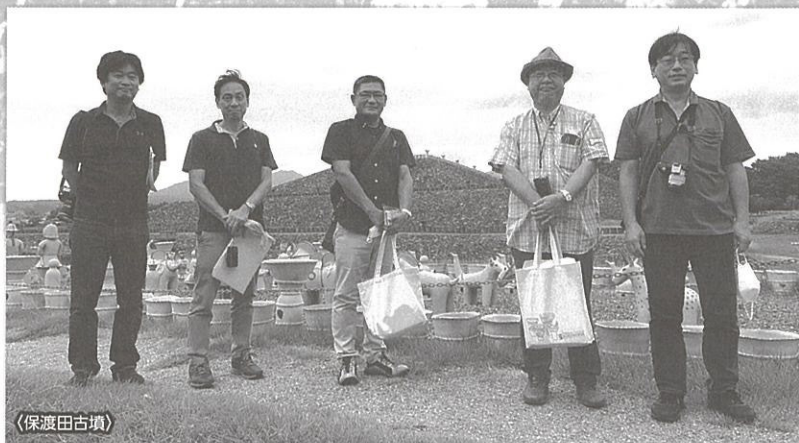
※お申し込みは、往復ハガキ1通につき、本シンポジウム1回分、1名様のみといたします。同一の往復ハガキで複数名のお申し込みはできません。

専用申込フォームでのお申し込み

万葉文化館ホームページの公開シンポジウム申込フォームから、郵便番号・住所・氏名・電話番号・メールアドレスを明記の上、お申し込み締切日の**17時まで**にお申し込みください。



発表者 プロフィール (五十音順)



左から清岡・田中・東城・若狭・松田(敬称略)

きよおか ひさし

清岡 央 (読売新聞東京本社文化部次長)

歴史・文化財の取材を長く担当し、遺跡発掘や世界遺産、文化庁の文化財行政などのニュースを記事にしてきました。

たなか ふみお

田中 史生 (早稲田大学教授)

日本古代史専攻。地域史や国際交流史の研究を通して、列島古代社会の国際性や多様性について考察しています。

とうじょう としき

東城 敏毅 (ノートルダム清心女子大学教授)

日本上代文学専攻。『万葉集』に収載されている「防人歌」や「東歌」を、律令官人における都と地方との交流、という観点から研究しています。

まつだ さとし

松田 聡 (岡山大学教授)

日本上代文学専攻。『万葉集』における歌や題詞・左注の表現について、大伴家持の作品を中心に、和歌史的な視点から研究しています。

わかさ とおる

若狭 徹 (明治大学教授)

日本考古学専攻。古墳時代の東国をフィールドとして、首長居館・古墳・集落・生産遺跡などを総合した古墳時代社会の立体的復元を目指しています。